

# 「父に生きた人！！子から父へ！！」 ～父に生きるとき神の計画が成し遂げられる～

出エジプト3：4-11

## ■ 私たちは畏に掛からないようにしなければならない

畏はいつも目の前に用意されています。気をつけなければいけない。(動画：鶏が畏にかかっています)前の人々が落ちて、それでも落ちにいく。これが人間なのです。目の前に畏があることが分かっているにもかかわらず。憎むとどうなるか?批判するとどうなるか?1部の声を聞くとどうなるか?ってことが聖書には書いてあります。でも私たちはやっぺしてしま。私たちはずっと続けています。目の前でずっとやり続けている人が居るのに、それで落ちていく人が居るのにそれでこんな事が起きるのだから?ただ愛し合うはずなのになんでこんな風に裏切りあうのだから?そのようなことが起きるその中で1人の人がそれでも神様の愛に立とうと多くの人が裏切りあって悪口を言う中で、もう自分はしない。自分はそういう方法ではやり返さない。私は彼ら愛する・祝福する。いや、自分で今できる事を。そのようにネルソンマンデラのように多くのリーダーたちのように行動した時に神様はそこに奇跡をもたらします。

## ■ 私はいったい何者なのでしょう!?

自分は何者かと聞かれて何と答えるでしょう!?名前を言えば相手に届くのでしょうか!?私たちは聖書でずっと学んできましたが、神様は理不尽の中でどうして世の中は理不尽だからそれでこんな事が起きるのだから?ただ愛し合うはずなのになんでこんな風に裏切りあうのだから?そのようなことが起きるその中で1人の人がそれでも神様の愛に立とうと多くの人が裏切りあって悪口を言う中で、もう自分はしない。自分はそういう方法ではやり返さない。私は彼ら愛する・祝福する。いや、自分で今できる事を。そのようにネルソンマンデラのように多くのリーダーたちのように行動した時に神様はそこに奇跡をもたらします。

ネルソンマンデラという人は自分が何者であろうかと思っていたと思いますか?彼は自分の中で、このアパルトヘイトを解決する仕事が自分の大切な目的だっただけで分かってはいませんでした。例え無実の罪で牢獄され、息子をそこで事故だと見せかけられて殺されても、彼らはそこで決して白人に対して反発をしない。そんな事が私たちは出来るのでしょうか!?アンデラを支えてきた中心の者達が言いました。今ここで初めて私たちが権利を主張できる時ではないのではありませんか!!白人たちにされてきた事を今やり返せるのではないのか!?なぜ、その中で彼らを側近に置くのであろうか。私は今までやってきた時代を繰り返すことにはしない!!そうした人がいるのでそれをしなければならぬことを知っている。それが決断できるように祈るわけです。するとその祈りの中で私たちの心の中にある自らの自己というものが少しずつ崩れていくことを体験することになります。私たちは決断することが出来るわけです。私は何者なのであろうかということを考える時である。

## ■ パロの前に出ていった10の災い

モーセが変わっていく姿が分かります。最初は自身がないがモーセは自分の役割が分かってきました。神様の前でモーセは何も申せないと言っています。自分の力では出来ませんと言っています。できなかったモーセがパロと向き合うなかで初めてエジプトの300万人の民を率いていく勉強をパロと共にするようになった。

## ■ 頑なな人々

モーセという人は神様の前から遣わされていきました。3人の人物が出てきます。①パロという頑なな人。②モーセという頑なな人。③イスラエルの民という頑なな人。頑なさってどれだけ怖いか私たちが分かんないと思います。私たちの心の中には頑固さが住んでいます。大事なことは、譲ってはならないことを譲ってはならない頑固さです。でも私たちは、譲ってもいいことに頑固なのです。どうでもいいことに頑固である。私たちがこの頑固さというものを取り除かないといけない。人から聞いた色々な情報を元に私たちは心の中に頑固さを持っている。そこにどんな背景があっても、どんな思いがあったかなんて関係ないのであります。私たちの心が一度頑固になってしまふと本当のメッセージが届いても聞けない。イスラエルの民はどれだけ神様から本当のメッセージを受けても繰り返して。

## ■ エジプトに神が主であることを示す

海に飲み込まれたパロ、どんなことを通して海に飲み込まれるまで行ってしまうのか!?

・モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行きイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならないとは」(3:11)

・神はモーセに仰せられた。「私は「わたしはある」という者である。」また仰せられた「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたの方のところに遣わされた』と。」(3:14)

・「たとい彼らがあなただを信ぜず、また初めのしるしの声に聞き従わなくても、後のしるしの声は信じるであろう。」(4:8)

・主はモーセに仰せられた。「エジプトに帰っていったら、わたしはあなたの手に授けた不思議を、ことごとく心に留め、それをパロの前で行え。しかし、わたしは彼の心を頑なにさせる。彼は民を去らせないのである。」(4:21)神様はパロを頑なにされたのでしょうか!?いや、元々彼の心は頑なですが神はそこに介入しなかつたということ。パロの心の頑固さを神は許したということです。ですから頑なにしたというのはいくまで人の意志です。自分の意志でしか人は頑なになりません。神がその人の心を頑なになんかしません。しかし神様は人の心が騒ぐときにみづかいて送ってその人の心を相ませたり少し心を安らかにしたり、励ましたり色々な方法でその人に聖霊様が語りかけることができます。あなたのところに誰かが来て祈ってくれることで私たちの心が変わることもあります。しかし神は今回それを赦したということがこの中で読み取ることが出来ます。エジプトにおいて神が主であることを示す最大のエジプトって誰かかっていうとモーセ

なのです。モーセはエジプトで王の息子として育つわけですからそこでモーセは未だにエジプトのパロの弟という存在なのです。ですから彼自身が神様が主であることを知らなければならない。まだ知っていない、頑ななのです。

- 1、(川の)水が血に変わる(7:19)
- 2、カエルの群れ(8:1)
- 3、地のちりがブヨになる(8:16)
- 4、アブの群れ(8:22)
- 5、家畜に疫病が流行る(9:3)
- 6、膿が出る腫物(9:10)
- 7、雹が降る(9:18)
- 8、バッタの大群(10:5)
- 9、3日間の暗闇(10:22)
- 10、初子(長子)が死ぬ(11:5)

人は失わないでも失っても分らないし、失うまでとことん失うまで行かないと、最後の最後すべてを失わないと自分が間違っていたことが認められない。とうとう、自分の人生すら後悔のなかで初めて彼は気が付く。聖書の中で言われています。自分がやっぺしてることがダメって言われています。同情はダメ、かわいそうではダメ、本当の愛でなければ変わらない。嘘をついてもダメ、本当の向き合い方をしなければ人は良くならない。と分かっている。神様の愛は真実の愛だと分かっています。私たちが真実の愛を求めるけれど本当はそれが出来なくて、いつも自分が中心にいて、1度痛い目に合うとその時は分かるが、それが過ぎ去るとまた戻ってしまう。神様の恵みややっぺしてはいけないと分かっているでも何か問題が起りその時は分かっていますが、また繰り返して行ってしまう。

## ■ 人生は踏み外す

踏み外すと分かっているでも踏み外してしまいます。私たちは愚かなのです。自分の心をちゃんと見張ってないといけない。自分がやっていることが本当に正しいかどうかを聖書と照らし合わせてみないといけない。多くの人は神様が言ったから!と言います。

だけど、そのやっていることは聖書の中で言っている神の愛とは違うことが多い。同情は決して神の愛ではありません。私たちはその人の人生を本当に思っ流すものが愛なのです。

## ■ 十字架の恵みを知る

私たちの過去には色々な出来事があります。モーセも最初の40年、王の息子としてエジプトで育ちました。何でも出来る俺は王の息子だ!でも、そんな中で自分はユダヤ人なのかと自分のルーツを学びます。すると自分の同胞がムチ打たれて苦しめているのを見て「俺はこのままでいいのか」と思っ自分の同胞が理不尽に打たれているそのエジプトの自分のしもべを手違いで殺してしまつた。エジプトから命を逃れて裏切り者なので荒野に逃げていくわけです。そこで自分は何も出来ない自分に出来ることは何もないというところまで落ちる。自分は何でも出来ると思っ自分が自分には何も出来ませんって学びます。そして彼はイスラエルの民と共に荒野を学んでいきました。そこで彼は学んだんです。自分では何も出来ないが、神と共に居るのならば自分は出来るという事を学びました。私たちは何でも出来ると思っ生きてきました。1人でやらないと思っ頑張ってます。だけどそれは私たちが傲慢である証拠です。私たちは自分の髪の毛すら生やすことができません。もう一度この血液を作り戻すことは出来ません。

神が造ってくれたこの体がすべてを成し遂げているだけで私たちは何も出来ません。自分が出来ないことを知るために訓練にあうことがあります。しかしその時に神は共にいてくれることを知ります。そんな私たちが人には出来ないことも神には出来ると思えるようになるのがこの十字架です。キリストは十字架の上で私たちの過去のすべての暗闇の部屋を開けてそれも優しくノックをして私たちの心に光を灯してくれました。

そして惹かれるようになった私たちの心の中にある全ての痛みを取り去ってくれました。だから私たちは祈ります。主よ、もしあなたがいるならこの私たちの心の中にある暗闇を取り去ってください。すると彼はそこに光となってくれるでしょう。

## ■ さいごに

今日は出エジプトの全体を見ました。小さなストーリーの中にとっても大切なことがたくさん出てきますが全体でこの中で出エジプトの民に伝えたかったことは頑なになるなということでした。私たちの心を柔らかい優しい心につくりかえ頑なになりそうなこの心を人の言葉によって影響を受けた心を今真っ白にしてください。

今、自分の心に目を向けて探ってみましょう。あなたの心の中には頑なな心はないでしょうか!?間違っことをしていないか!?祈っていきましょう。

(要約者:西崎 孝之)

(2024年7月14日)